



Triple I for Global Health



Impact Investment Initiative for Global Health

(トリプルI)

活動報告書

2024年9月 - 2025年9月



Contents

序文	01
概要	06
トリプルパートナーによるインパクト・ストーリー	10
マルチセクター連携と意識向上のための パートナーシップ	14
パートナーシップ・エコシステムの構築	19
ウェブサイト開発とソーシャルメディア	20
インパクト投資モデルの開発支援	21
グローバルヘルス分野におけるインパクト投資を 促進するための政策と環境の整備	22
グローバルヘルスにおけるインパクト投資の現状分析	23
今後の展望	33
Annex	34

序文

トリプル共同議長より



渋澤 健

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社
代表取締役



スティーブ・デービス

ゲイツ財団 シニアアドバイザー、
スタンフォード大学経営大学院 講師



アヨーデ・アラキジャ

FIND 理事長、
WHO ACT- Accelerator 特使

「グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ」(トリプルI)は、2023年のG7広島サミットで承認され、2023年9月の国連総会(UNGA)ハイレベル会合に合わせて立ち上げられた野心的なイニシアティブです。このイニシアティブは、世界的にユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)と持続可能な開発目標(SDGs)を達成するために、民間セクターの投資を加速することを目的としています。特に低・中所得国(LMICs)に焦点を当てています。

各国、特にLMICsは財政的負担の増大に直面しており、グローバルヘルスの安全保障を維持し、UHCやSDGsを達成するためには、民間セクターによる資金調達の拡大と保健システムの強化が急務です。同時に、これらの課題に対応する収益機会も必要です。

トリプルIの3つの主要な目標は、以下の通りです。

- グローバルヘルスのイノベーションとシステム強化におけるインパクト投資を通じて民間セクターの投資を加速すること
- グローバル、特にLMICsのコミュニティにおける保健アウトカムの測定を可能にし、自立したイニシアティブの実現に向けて取り組むこと
- ヘルスケア投資家のための市場を拡大し、ポジティブなリターンを生み出すこと

トリプルは、以下の3つの柱を通じて、トリプルボトムラインを達成することを目指しています。

1. インパクト投資への認知度を向上させる: ミーティングやコミュニケーションプラットフォームの構築を通じて、保健分野へのインパクト投資の利点についての理解を深めます。また、クロスセクターのさまざまなステークホルダーのニーズに対する理解を進め、グローバルヘルスへのインパクト投資を促進します。
2. インパクト投資モデルの開発を支援する: ベストプラクティスとなるインパクト投資事例を収集し、それらの共有とさらなる改善を図ることで、グローバルヘルスにおけるインパクト測定・管理 (IMM) 指標の統一化を図ります。また、低・中所得国の保健ニーズや優先事項に基づいたエコシステムアプローチを強化するために、定量的な指標を超えた新たなアプローチを追求します。
3. インパクト投資のためのインセンティブを加速させる: G7や各国パートナー、国際機関と連携し、政府や開発金融機関 (DFIs)、その他の関連組織に対して、グローバルヘルスへのインパクト投資を支援するためのエコシステム創出に関する政策を提唱します。

インパクト投資とは、財務的リターンを追求しながら、ポジティブで測定可能な社会的および環境的な影響を生み出すことを目的とした意図的な投資のことを指します。これまで、グローバルヘルスへの取り組みは政府やドナーが資金を負担するものとして捉えられてきました。しかし、COVID-19の影響やグローバルな人口動態の変化、新たなイノベーションと市場の進化により、健康はすべての人に関わる問題であることが示されました。そのため、グローバルヘルスは、ビジネスや投資家にとって成長戦略の機会を提供しています。

利益を伴うインパクト投資が、グローバルヘルスに必要なすべての資金を提供することはできず、またその役割を担うべきでもありません。しかし、グローバルヘルスのバリューチェーンにおいて、これらの投資が果たすべき重要な役割が存在し、それによりすべての人々の健康の実現に寄与できます。

トリプルはその設立以来、これらの野心的な目標を達成するために努力を重ねてきました。ミーティングを開催し、主要な国際的イベントに参加することで、グローバルヘルスにおけるインパクト投資の認知度を高め、その重要性を広めてきました。2023年から2024年の間には、世界経済フォーラム、世界保健総会、国連総会、アフリカ開発会議 (TICAD 9) などでサイドイベントを開催し、インパクト投資が健康に与える価値についての理解を深めました。

第2・第3の柱に関して、トリプルは2024年にIMMワーキンググループと、保健分野のインパクト投資を促進するための環境整備のための政策提言ワーキンググループの2つを設立しました。これらのワーキンググループからは、それぞれのグループによる2つの提言と、IMM実務者ガイドが成果物として発表されています。

また、トリプルは運営委員会やパートナー、実施/ナレッジ (I/K) パートナー、助言/支援 (A/A) パートナーと密接に連携し、専門知識や経験の共有を促進し、パートナーシップ・エコシステムの構築を目指しています。トリプルは国際社会におけるハイレベルからの支援を継続的に受けながら、設立当初の37メンバーから、2025年9月末時点で115メンバーにまで拡大したことを嬉しく思っています。継続的な関与と協力をいただいているすべてのパートナーやサポーターに感謝申し上げます。志を同じくする組織をつなぐことで、「すべての人々の健康を実現する」という私たちの共通ビジョンを達成できると考えています。

さらに、グローバルヘルス投資のコミュニティ全体で学びを共有できるよう、好事例の収集と発信にも積極的に取り組んでいます。

この2年間で大きな進展があった一方で、野心的な目標の実現にはまだ多くの課題が残っています。特にODAを含む保健ファイナンスの面で、グローバルヘルスを取り巻く状況が一層厳しさを増す中、トリプルの役割はますます重要になっています。私たちのハイレベルかつ多分野横断的な対話では、保健・ファイナンス・開発関係者間のギャップを埋める「セクター横断的な翻訳」の必要性を強調しています。IMMの調和も引き続き優先課題であり、トリプルの活動を最大限活用して、特に脆弱な人々を対象とした喫緊のグローバルヘルス課題に取り組むことが求められています。グローバルヘルス分野へのインパクト投資を促進するための環境整備に対してもさらなる努力が必要です。健康は強靱な社会の礎であり、今こそ、より健康で公平な未来に向けて私たちの取り組みを加速させる時です。



ビジョン

民間セクターへの投資を増加させることで、世界およびLMICsにて、
UHCを実現し、ヘルスシステムやヘルスイノベーションを
発展・成長させる世界を作る



ミッション

主にLMICsにおける地域社会の保健アウトカムへのインパクト拡大と、
ヘルスケア投資家にとっての市場拡大に焦点を当てながら、
グローバルヘルスのイノベーションとシステム強化に対する
インパクト投資を通じて、民間セクターの投資を加速させる



原則

- 特にLMICsにおけるグローバルヘルス課題の解決を目的としたプロジェクトや金融取引を促進する。
- エビデンスに基づいて報告・レビュー・検証が可能な社会的インパクトや成果を持つプロジェクトおよび金融取引を推進する
- インパクト投資やインパクトの透明性をさらに促進・発展させる

序文

トリプル事務局より



鈴木 秀生

国際保健担当大使

地政学的・環境的な課題が激化する現代において、強靱で包摂的かつ公平な医療システムを構築する必要性はかつてないほど高まっています。私たちは、公的・民間セクターを超えたグローバルな連携を強化し、アクセス可能で手頃なだけでなく、将来のリスクにも適応できるヘルスケア・エコシステムを創出しなければなりません。そのためには、資金ギャップを埋めるための民間インパクト資本の動員と、グローバルヘルスに変革をもたらす最先端技術の活用が不可欠です。

トリプルは、2023年の国連総会で、G7広島サミットでの首脳承認を受けて発足しました。わずか2年で、投資家、政府、DFI、MDB、市民社会団体など115以上のパートナーによるダイナミックなネットワークへと成長し、ラウンドテーブルやワーキンググループ、グローバルフォーラムを通じて積極的に活動しています。本報告書は、これらステークホルダーの知見と貢献を反映したものであり、その献身と協力に心から感謝いたします。

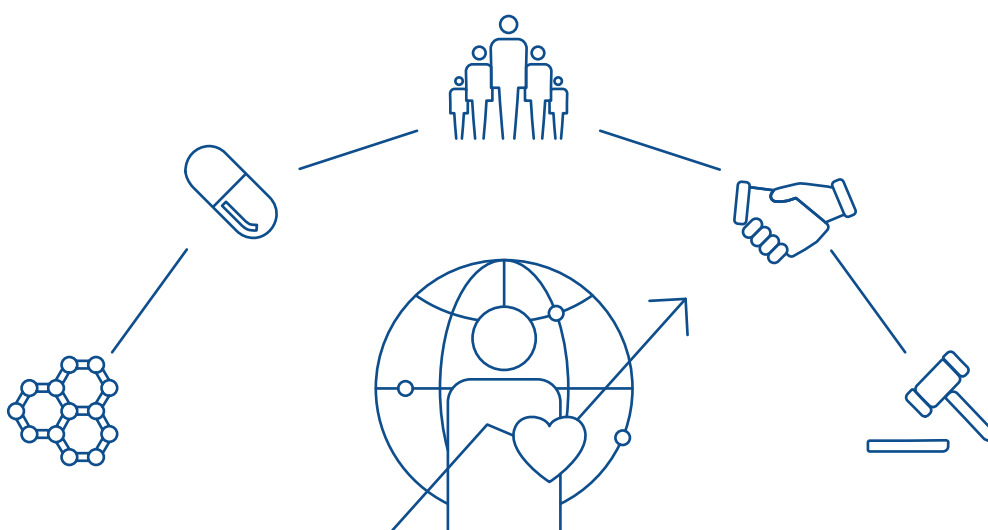
設立1周年以降、トリプルはさらに大きな進展を遂げてきました。国連総会、世界経済フォーラム、世界保健総会、TICAD 9など、主要な国際プラットフォームで存在感を高め、保健分野におけるインパクト投資の可視性を飛躍的に向上させました。投資環境の整備を促進する政策提言や、グローバルヘルス分野におけるインパクト測定・管理（IMM）実務者ガイドおよびIMM提言の初版も発表しました。事務局はこれらの提言のフォローアップに尽力するとともに、各国政府や関係機関にも、グローバルヘルス分野のインパクト投資エコシステム構築に向けた革新的な取り組みを促していきます。

特に重要なのは、トリプルがグローバル・サウスの役割を「投資の受け手」だけでなく、「積極的な投資家、イノベーター、パートナー」として強調し続けている点です。セクターや地域を超えた多様なステークホルダーの協働も、実効的なインパクトを生み出す鍵となります。

日本は長年、健康を開発と経済成長の礎と位置づけ、グローバルヘルス分野で積極的な役割を果たしてきました。トリプルの文脈において、2025年には日本で2つの大きな進展がありました。第一に、JICA法の改正により、JICAは信用保証や民間企業への直接支払い、サステナビリティ連動型金融などの手法を通じて、民間資金をより効果的に動員できるようになりました。第二に、TICAD 9において、石破茂首相（当時）が「アフリカの持続可能な健康のための投資促進パッケージ」の開始を発表しました。このパッケージは、トリプルのさらなる発展を目指すだけでなく、アフリカ諸国におけるガバナンスや持続可能な規制体制の推進を通じて、投資環境の創出も支援します。

末筆ながら、この2年間、本イニシアティブに尽力された3名の共同議長に敬意と感謝を表しますとともに、再任されたことを嬉しく報告いたします。また、事務局チームの不断の努力にも心より感謝申し上げます。日本政府は今後1年間も事務局を務め、G7パートナーや国際社会と緊密に連携し、本イニシアティブの持続性と長期的インパクトを確保してまいります。

パートナーや国際社会とともに、インパクト投資の可能性を最大限に引き出し、グローバルヘルスの課題解決と、すべての人にとってより健康で公平な未来の実現を目指していきます。



概要

トリプルの立ち上げ

近年、LMICsを中心にグローバルヘルス分野の財政負担が増大していることから、公的資金に加え、民間資金の動員が喫緊の課題となっています。

こうした背景の中、G7首脳は2023年広島サミットにおいて、グローバルヘルスにおけるインパクト投資の重要性を認識し、ベストプラクティスを共有するためのイニシアティブとしてトリプルIが立ち上げられました。このイニシアティブは、UHCの達成を含むグローバルヘルスの向上に寄与することを目的としています。イニシアティブの発表は、2023年9月の国連総会のハイレベル会合で行われました。その際に岸田文雄首相（当時）は、投資家や民間企業・組織にさらなる参画を呼びかけました。このイベントには、ドイツやイギリスなどの各国の大臣、国際機関および投資家の代表も出席しました。

2023年9月の発足以来、トリプルIは、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の可視性向上や、インパクト測定・管理の推進、インパクト投資を支援する政策の推進など、さまざまな活動を展開してきました。

トリプルIの認知度と保健分野におけるインパクト投資への理解は、アウトリーチ活動やラウンドテーブルなどの様々なイベントを通じて着実に高まっています。2023年9月から2025年9月の期間において、パートナーの数は37から115に増加しました（民間投資家、民間企業、NGO、国際機関、国際開発金融機関（MDBs）、DFIsなどを含みます）。

2023年のUNGAでの発足と2024年の初期拡大を経て、トリプルIは実装とグローバルな関与の新たな段階に入りました。2024年9月以降、IMMワーキンググループを立ち上げ、IMMに関する実務者ガイドや提言を発表しました。また、環境整備のための政策提言ワーキンググループも設立し、各国政府や国際機関向けの政策提言を発表しました。さらに、パートナー間のセクター横断的な連携を促進するためのラウンドテーブルも複数開催されました。



Photo: Cabinet Public Relations Office

2024年9月以降の国際会議においては、トリプルIは2025年の世界経済フォーラム、世界保健総会、第9回アフリカ開発会議（TICAD 9）、国連総会などでサイドイベントを開催しました。加えて、Health20サミット、世界保健サミット、Health Tech Network Fireside Chat、GIIN Impact Forum、SOCAP24、Bellagio Center Convening、AVPN Northeast Asia Summitなどの主要イベントにも参加し、セクターを超えたステークホルダーとの連携を深め、ヘルス・イノベーションと公平性に向けた民間資本の動員を推進するグローバル・プラットフォームとしての役割を強化しています。



Photo: Cabinet Public Relations Office



2023年9月
第78回国連総会の機に
トリプルを設立



2024年1月
世界経済フォーラム
年次総会サイドイベント



2024年5月
第77回世界保健総会
サイドイベント



2024年9月
第79回国連総会
サイドイベント



2023



2023年12月

第1回
ラウンド
テーブル



2024年2月

第2回
ラウンド
テーブル



2024年7月

第3回
ラウンド
テーブル

2024



2023年12月

第1回
運営委員会



2024年2月

第2回
運営委員会



2024年8月

第3回
運営委員会

2023年5月
G7広島サミットにて
各国首脳より承認



2024年5月
金融庁
インパクトコンソーシアム主催
インパクトフォーラムに参加

2024年9月
IMM
ワーキング
グループ
開始



37パートナー (2023年9月末) → 115パートナー (2025年9月末現在)



2025年1月
世界経済フォーラム
年次総会サイドイベント



2025年5月
第78回世界保健総会
ハイレベルディナー開催



2025年8月
第9回アフリカ開発会議
(TICAD 9)
サイドイベント



2025年9月
第80回国連総会
サイドイベント

2025年3月
ステークホルダー・
ネットワーキングセミナーを
東京で開催

2024年12月

第4回
ラウンド
テーブル

2025年2月

第5回
ラウンド
テーブル

2025年4月
AVPN
北東アジアサミット
2025に参加

2025年9月

第6回
ラウンド
テーブル

2025年
9月

IMM ワーキンググループ (12ヶ月で計8回実施)

2025

環境整備のための政策提言ワーキンググループ (3ヶ月で3回実施)

2025年2月

第4回
運営委員会

2025年8月

第5回
運営委員会

2024年12月
Bellagio Center
Convening参加

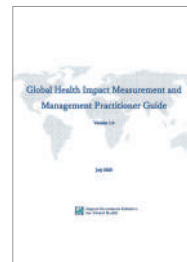
2025年6月
H20サミット
参加

2024年11月
環境整備のための政策提言
ワーキンググループ開始

2025年4月
環境整備のための
政策提言を发出

2025年7月
IMM
実務者ガイドを公開

2025年9月
IMM政策提言を
发出



2024年10月
世界保健サミット、
Health Tech Network
Fireside Chat、
GIINインパクトフォーラム、
SOCAP24に参加



ラウンドテーブル **6** 回開催

運営委員会 **5** 回開催

アウトリーチイベント **23** 回参加

トリプルパートナーによる インパクト・ストーリー

トリプルIのパートナーによるインパクト事例は、グローバルヘルス分野において、財務的リターンと並行して持続的かつ測定可能な成果を達成できる強い可能性を示しています。これらの事例は、グローバルヘルスのエコシステム内の複数の領域に投資機会が存在することも示唆しています。インパクトを測定することで、インパクト投資家は自らの活動価値を他のステークホルダーに示すことができます。本セクションでは、そのようなインパクト事例の例を紹介します。

TEAMFund:

AIを活用したデジタルヘルスケアをサービスが届きにくい人々へ拡大

- TEAMFundは、LMICsにおけるAIデジタルヘルスケアのスタートアップに投資し、手頃で質の高いケアへのアクセス拡大を目指しています。2015年以降、3,000万ドル規模のファンドIから7社に総額2,000万ドルを投資し、1億700万人の患者に影響を与え、強固な財務的リターンを達成しました。
- TEAMFundの強みは、深い業界知識と80名以上のメドテック業界のベテランによる強力なアドバイザリーネットワークにあり、ポートフォリオ企業が効率的に事業を拡大し、戦略的パートナーシップを形成できるよう支援しています。TEAMFundの市場に適した投資構造は、大手メドテック企業や製薬企業をパートナーとして惹きつけています。
- 厳密なインパクト測定はTEAMFundの使命の中核であり、患者の医療アクセス、企業成長、民間投資に焦点を当てています。特筆すべきは、ポートフォリオ企業のForus Healthが、AIを活用した眼科ケアと官民連携パートナーシップを通じて、インドで1,800万人の患者にサービスを提供し、資源制約のある環境でスケーラブルなインパクトを実証している点です。



詳細は <https://teamfundhealth.org/impact/> をご覧ください。

MedAccess:

HIV・梅毒同時迅速検査へのアクセス拡大

- MedAccessは革新的な資金調達手法（ボリューム保証）を活用し、100か国以上のLMICsにおいてHIV・梅毒の同時迅速検査を1回あたり1ドル未満で提供可能にしました。これにより検査の価格が大幅に引き下げられ、何百万人もの妊婦がHIVと併せて梅毒の検査を受けられるようになりました。
- MedAccessは、製造業者、国際保健機関、ドナーと連携することで市場の障壁を克服し、平均市場価格を21%削減しました。これにより、同時検査プロトコルの普及が促進され、数千件の死産や先天性梅毒の予防につながるなど、重要な公衆衛生上の成果が得られました。
- MedAccessのブレンデッド・ファイナンスモデルと協働的なアプローチは、持続可能なインパクトの循環を生み出しています。運営による剰余金はすべて新たな契約に再投資され、得られた知見は新たな保健課題やアフリカ地域での製造拠点の構築などに活用されています。



詳細は <https://medaccess.org/our-agreements/agreements/dual-test-hiv-syphilis/> をご覧ください。

Quadria Capital:

三層構造によるヘルスケア・インパクトの管理

- アジアに特化したヘルスケア分野の大手プライベート・エクイティ企業であるQuadria Capitalは、独自の3層構造のIMMフレームワークを開発しました。このフレームワークは「アクセス性」「手頃さ」「品質」「認知度」の4つの柱に基づいており、国連SDGsやImpact Frontiersなどの国際基準に整合しています。また、第三者機関による検証で高評価を得ており、信頼性と厳密性を確保しています。IMMは、投資前の仮説策定やインパクトスコアリングから投資後のモニタリングまで組み込まれており、投資判断や価値創造計画の形成に影響を与えています。
- Quadria CapitalのNephroPlus（アジア最大の透析チェーン）への投資は、このアプローチを体現しており、強固な財務的リターンと有意義な保健アウトカムの両立を図っています。
- NephroPlusは、4カ国250都市にわたる490以上の施設で、30,000人超の患者に対し、300万回以上の透析セッションを提供してきました。特筆すべきは、インド国内の施設の76%以上がティアII・ティアIIIの都市に立地しており、サービスが行き届いていない市場で手頃な価格と高品質なケアを推進している点です。同社は資産を軽くし、資本効率を高めるモデルを採用しており、強固な単位経済性と運営規模を伴う迅速な拡大を可能にしています。
- 戦略的パートナーシップと持続可能なヘルスケア投資を通じて、Quadria Capitalは2030年までに10億人の生活にポジティブなインパクトを与えることを目指しています。



詳細は https://quadriacapital.com/wp-content/uploads/2025/05/Quadria_Investing-for-Impact-Report_2024.pdf をご覧ください。

AXA IM Alts： インパクト投資による世界的な妊産婦保健の危機への対応

- AXA IM Altsは、オルタナティブ投資分野のグローバルリーダーとして、妊産婦死亡率などの重大な保健課題に取り組む革新的なソリューションへの投資を行っています。
- AXA IM Altsは、産後出血 (PPH) への対応を目的にAlydia Healthへ投資しました。この支援により「Jadaデバイス」の開発が実現し、後にOrganon社による買収につながりました。これにより、妊産婦保健分野での継続的な拡大とインパクトが保証されました。
- Jadaデバイスは、出血を迅速に止めることができ、資源の限られた環境でも使用可能です。FDA (米国食品医薬品局) の承認を取得しており、電力供給が不安定な地域でも使用できるよう設計されています。2025年第3四半期までに、23か国で13万4千人以上の女性の命を救う、または健康を改善する成果を上げました。
- グローバルアクセス契約により、このデバイスはLMICsにも届けられています。戦略的パートナーシップを通じて、サプライチェーンの障壁を克服し、導入を促進しました。AXA IM Altsは現在も関与を続け、長期的なインパクトのモニタリングと推進に取り組んでいます。
- Alydia社の買収は、優れた財務的リターンと社会的アウトカムの両立を実現しました。AXA IM Altsは、女性の保健分野におけるインパクト投資の拡大に向けて、得られた知見を共有しています。同社のアプローチでは、財務的成功と保健インパクトが相互に強化し合う関係にあります。



詳細は <https://alts.axa-im.com/investment-expertise/healthcare> をご覧ください。

以下のインパクトストーリーについては、当社のウェブサイトでもご覧いただけます。

- **mothers2mothers (m2m)** は、南アフリカを拠点とする非営利団体で、HIVとともに生きる女性を「メンター・マザー」として育成し、地域で一次医療サービスを提供しています。
- このプログラムは、これまでに1,600万人以上の人々に支援を届け、12,000件以上の雇用を創出。リスクの高い女性や子どもたちの保健アウトカムの改善に大きく貢献しています。



詳細は <https://m2m.org> をご覧ください。

- **Health Finance Coalition (ODAPHI)** は、Health Finance Coalition (ODAPHI) は、COVID-19のパンデミック期に設立され、アフリカ5か国にある267の医療施設を支援するために、1,920万ドルの保証を提供しました。
- この取り組みは、官民連携によるブレンデッド・ファイナンスによって実現され、3,000万ドルの融資を引き出すことに成功。女性、子ども、低所得層など、医療サービスが届きにくい人々への支援の拡充に貢献しました。



詳細は <https://healthfinancecoalition.org> をご覧ください。

- **Verge Health Tech Fund**は、医療サービスが十分に届いていない市場において、医療アクセス改善に取り組むヘルステック・スタートアップに投資しています。
- 代表的な成功事例のひとつが**reach52**であり、地域の保健スタッフを育成し、地方の住民を医療サービスにつなぐデジタルプラットフォームです。
- Verge Health Tech Fundの支援により、reach52は7か国に展開し、数百万人に医療サービスを届けることで、保健アウトカムの改善に貢献しています。



詳細は <https://www.verge.fund> をご覧ください。

- **The Global Health Investment Corporation (GHIC)** は、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の支援を受けて設立され、官民連携によるブレンデッド・ファイナンスを活用し、グローバルヘルス分野のイノベーションを加速させています。
- GHICが運営する「Global Health Investment Fund」を通じて、10億ドル以上の追加投資を呼び込み、現在では120か国以上で使用されている16の登録済み医療製品の開発を支援しました。これらの製品は、低・中所得国 (LMICs) における保健アウトカムの改善に大きく貢献しています。



詳細は <https://ghicfunds.org> をご覧ください。

- **エーザイ株式会社**は、世界保健機関 (WHO) との協定のもと、リンパ系フィラリア症の治療を目的として、治療薬のジエチルカルバマジン (DEC) 錠剤23億8千万錠を32か国に寄贈しました。
- この取り組みは、感染症対策における国際的な貢献であると同時に、患者・投資家・その他ステークホルダーに対して創出されたグローバルヘルスの価値を評価・開示するための「インパクト加重会計 (Impact-Weighted Accounting)」の先駆的な導入にもつながりました。



©JICA

詳細は <https://www.eisai.com/index.html> をご覧ください。

- **LeapFrog Investments**は、インドの診断サービス企業であるRedcliffe Labsと協力し、DALYs (障害調整生命年) とSROI (社会的投資収益率) の活用を試験的に導入し、保健インパクトを定量化し、社会的成果に金銭的価値を付与しました。これらのツールは、保健指標と財務指標を統合し、LMICsにおける医療介入を評価するための共通言語を生み出す役割を果たします。



詳細は <https://leapfroginvest.com> をご覧ください。

- **SAMRIDH**は、USAIDの支援を受け、IPE Globalが実施するブレンデッド・ファイナンスの仕組みであり、公的資金、民間資金、慈善資金を動員して、市場ベースのヘルスソリューションを拡大しています。2020年以降、4,200以上の施設を支援し、27,000人超の医療従事者を研修し、4,300万人にサービスを提供しました。また、慈善資金1ドルに対して10ドルを活用するレバレッジ効果を実現しています。



詳細は <https://samridhhealth.org/> をご覧ください。

- **SORA Technology** は、日本のドローン系スタートアップであり、AIと空撮技術を活用して、気候変動による疾病拡大の中で蚊の繁殖場所を特定しています。幼虫発生源管理の費用対効果を測定することで、インパクト重視の投資家を惹きつけ、意欲的な地域パートナーを獲得しました。



詳細は <https://sora-technology.com/en/> をご覧ください。

マルチセクター連携と意識向上のための パートナーシップ

グローバルヘルスにおけるインパクト投資の可能性と重要性、および様々なステークホルダーの役割についての認識を高め、志を同じくするステークホルダーのネットワークを構築するために、本イニシアティブは、以下を含む主要なグローバル会議におけるイベントの主催、またイベントへの参加を実施しました。

イベントの開催

2025年1月21日

世界経済フォーラム2025年年次総会

トリプルは、2025年の世界経済フォーラム年次総会（ダボス）期間中に「グローバルヘルスのための新たな資金調達：政府、国際機関、企業はインパクト投資をいかに拡大できるか」と題したハイブリッド形式のサイドイベントを主催しました。本イベントには100名以上が参加者し、特にLMICsにおけるグローバルヘルス分野でのインパクト投資を推進するための今後の取り組みについて議論が交わされました。

イベントでは、グローバルヘルスにおけるインパクト投資推進の重要性が強調され、政策立案者向けの提言「グローバルヘルスへのインパクト投資の促進 - 政府および国際機関が果たすべき役割」が発表されました。この提言は参加者の活発な議論を促し、政策の役割や将来の行動についての多くの洞察が共有されました。

パネルディスカッションには、AXAインベストメント・マネージャーズ、アフリカ輸出入銀行（Afreximbank）、Medicines Patent Pool、ドイツ復興金融公庫（KfW）の代表が登壇しました。



2025年3月25日

日本におけるステークホルダー・ネットワーキングセミナー

トリプルIは、日本の内閣官房との共催により、2025年3月25日に東京でハイブリッド形式のステークホルダー・ネットワーキング・セミナーを開催しました。本セミナーには、国際機関、民間企業、投資家、ベンチャーキャピタル、NGO、日本の政府省庁や機関から70以上の代表者が集まり、グローバルヘルスのインパクト投資におけるアイデア交換、ケーススタディの共有、機会の模索を行いました。

セミナーでは、AAIC Investment Pte. Ltd.、AXAインベストメント・マネージャーズ、ユニセフ、Health Finance Coalition、SIIFインパクトキャピタル株式会社などのパートナー団体によるプレゼンテーションが行われました。続くネットワーキングレセプションでは、分野横断的なステークホルダー間での対話と協働が促進されました。



2025年5月21日

第78回世界保健総会

トリプルIは、スイスのジュネーブで開催された第78回世界保健総会 (WHA) 期間中、スイス・ジュネーブにてハイレベル・ディナーを開催し、保健と金融部門の主要なステークホルダー約25名が参加しました。この夕食会は、トリプルIの共同議長であるアヨーデ・アラキジャ博士のファシリテーションにより、インパクト投資を通じた保健目標の達成に向けて、投資戦略の整合性と連携の可能性について意見交換を行うことを意図して開催されました。議論では、明確なインパクト測定指標の重要性や保健バリューチェーン強化におけるイノベーション

の役割、資金ギャップに対処するためのセクター横断的な協働の重要性などが強調されました。このイベントを通じたネットワーキングの機会により、グローバルヘルス・ファイナンスのための持続可能なエコシステム構築に向けた関係強化が図られました。



2025年8月21日

第9回アフリカ開発会議 (TICAD 9)

トリプルIは、ユニセフおよび日本の内閣官房と共に、神奈川県横浜市で開催された第9回アフリカ開発会議 (TICAD 9) でイベントを開催しました。「グローバルヘルスへの投資促進：革新的な解決策とインパクトを共創するためのセクター横断のパートナーシップ」というテーマのもと、この国際的な集まりには、アフリカ、日本、その他の地域から約200名の参加者が集まりました。本イベントは非常に活気に満ち、各セッションでは活発な議論と意見交換が行われ、大きな盛り上がりを見せました。アフリカの医療システムとその発展に強く焦点を当てながら、喫緊のグローバルヘルス課題に対応するためのセクター横断的な連携と革新的な投資の促進を目的としています。

このイベントは、日本政府の友納理緒内閣府大臣政務官、トリプルIの共同議長である渋澤健氏、ユニセフのキャサリン・ラッセル事務局長からの歓迎の言葉で開幕し、アフリカ開発銀行と世界銀行の代表者による基調講演が行われました。さらに、JICA、UNIFEC、UNFPA、株式会社LIXIL、mothers2mothers、みずほフィナンシャルグループからリーダーが登壇し、活発な意見交換が行われました。その後のネットワーキングレセプションでは、UHC2030、GSGインパクトアンバサダー、ユニセフによる挨拶がありました。レセプションでは、日機装、UnitAid、AAIC、Revital Healthcareによる日本とアフリカの成功事例も紹介されました。



2025年9月23日

第80回国連総会サイドイベント

トリプルIは、第80回国連総会の会期中にニューヨークで開催されたサイドイベント「グローバルヘルス・インパクトの加速：エコシステム構築と共通言語の追求」を、日本の内閣官房、ジャパン・ソサエティー、グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN) と共に開催しました。

このイベントには、保健関連機関、多国間開発銀行 (MDBs)、開発金融機関 (DFIs)、NGO、民間投資家・被投資家、政府関係者など、多様なステークホルダーから60名以上が参加しました。

7月に発表された「インパクト測定・管理 (IMM) 実務者ガイド」初版の成果を踏まえ、トリプルIは包括的な提言『グローバルヘルスにおけるインパクト測定・管理の推進 — 市場インセンティブと規範の構築に向けて』を発表し、IMMの実践向上に対する国際的な取り組みへの強いコミットメントを示しました。

議論では、IMM基準の調和、地域レベルでのエコシステム構築の推進、IMMの戦略的優先事項の明確化に焦点が当てられ、信頼性が高く効果的なグローバルヘルス・インパクト投資の実現に向けた実践の促進が図られました。



参加イベント

2024年10月23日

GIINインパクトフォーラム

トリプルIは、グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN)の主催するGIINインパクトフォーラムで「ヘルスケア分野における新たな機会」と題したパネルセッションに参加しました。本セッションは、トリプルIの共同議長である渋澤健氏の司会のもと、トリプルIパートナーであるLeapFrog Investments、TVM Capital Healthcare、Medical Credit Fundの代表者が登壇しました。各パネリストはグローバルヘルス分野におけるイノベーション、AI、インパクト投資の交差点についてそれぞれの見解を共有し、LMICsにおけるインパクト投資促進の取り組みと、より強固な連携の必要性を強調しました。



2024年10月28日

SOCAP24

トリプルIは、サンフランシスコで開催されたSOCAP24において「グローバルヘルスのための資本動員：G7インパクト投資イニシアティブ」と題したセッションを主催しました。本セッションは、Sorenson Impactのシニアフェローであるエリック・ライス氏がモデレーターを務め、トリプルIの共同議長であるスティーブ・デービス氏、Verge HealthTech Fund、Grand Challenges Canadaの代表が登壇しました。本イベントは、民間資本と公的資金を動員して2030年までにUHCとSDG3(持続可能な開発目標3)の達成に向けて、トリプルIが推進する民間資本と公的資金の動員手法、革新的な資金調達必要性、そしてG7の役割が強調されました。



2025年4月23日

AVPN北東アジアサミット2025

トリプルは、パートナーであるAsian Venture Philanthropy Network (AVPN)が主催する「AVPN北東アジアサミット2025」の「スケーラブルなグローバルヘルス・ソリューションの資金調達」と題したパネルセッションに参加しました。本パネルディスカッションでは、AXA Investment Managers UK Limited、Verge HealthTech Fund、EY Japan、および野村アセットマネジメント株式会社の代表が登壇し、グローバルヘルス分野における資金ギャップを埋めるインパクト投資の役割を強調しました。民間セクターの関与、セクター横断的な連携、インパクトと経済的リターンの互換性、そして保健分野におけるインパクト投資を拡大するための教育やIMMの必要性が強調されました。



その他のアウトリーチイベント

- **世界保健サミット** (2024年10月)

トリプル共同議長のデービス氏は、2024年10月13日から15日に開催された世界保健サミットにて「G7/G20のためのグローバルヘルス外交の進化 - 多重危機下における保健の優先順位付け」と題したセッションに登壇しました。

- **Health Tech Network Fireside Chat** (2024年10月)

トリプル共同議長のデービス氏と国際協力機構 (JICA) の上級顧問が、グローバルヘルスおよびインパクト投資に焦点を当てたセッションに参加しました。

- **Bellagio Center Convening** (2024年12月)

トリプル共同議長の渋澤氏は、2024年12月9日から13日に開催された「Bellagio Center Convening」に参加し、12月10日にオンラインで講演を行いました。

- **H20サミット** (2025年6月)

AXAインベストメント・マネージャーズのヘルスケア・プライベート・エクイティ部門副責任者であるジーナ・アフアス・ベッセ博士は、WHO本部 (ジュネーブ) で2025年6月19日から20日に開催された「パートナーシップの再構築とグローバルヘルスにおける公共の信頼回復」をテーマにしたH20サミットに参加しました。

パートナーシップ・エコシステムの構築

— 協働の促進、ベストプラクティスの共有、専門知識の構築 —

トリプルIは、パートナー間で協働を促進し、ベストプラクティスを共有し、インパクト投資に関する専門知識を構築するとともに、トリプルIの今後の方向性を定めるため、以下の関係者向けイベントを開催しました。

ラウンドテーブル

- トリプルIは、パートナーがベストプラクティスや活動状況を共有するとともに、将来の活動について議論し、ネットワークを強化するためのラウンドテーブルを開催しています。
- 2024年9月以降の期間において、第4回・第5回・第6回のラウンドテーブルをそれぞれ2024年12月、2025年2月、2025年9月に開催し、LMICsを含む世界中のパートナーが参加しました。
- 第4回ラウンドテーブルでは、IMM実践ガイドの主要要素や、環境整備を強化するための政策提言について議論しました。Global Health Investment Corporation (GHIC) は、LMICsにおけるヘルス・イノベーションを促進する「Catalytic Health Investment Platform (CHIP)」について発表しました。
- 第5回ラウンドテーブルでは、年次報告書の進捗、環境整備を強化する政策提言、新しいトリプルIパートナーウェブサイト、IMMとインパクト投資の推進計画について共有しました。Health Financing Coalition (HFC) は、アフリカのヘルスケア投資エコシステムにおける投資とインパクト創出の取り組みを紹介しました。
- 第6回ラウンドテーブルでは、トリプルIの進捗として、日本が事務局を継続することや共同議長の任期を2年間延長することが共有されました。PharmAccessと国際協力機構 (JICA) は、アフリカの医療提供者向けの革新的な資金調達ソリューションや、民間資金を拡大する新しいツールについて発表しました。

運営委員会

- 運営委員会は、戦略や目標に関する助言を行い、主要なステークホルダーやパートナーの参加と関与を確保し、トリプルIが変革的なグローバルヘルス・イニシアティブとしてのビジョンを達成することを支援します。委員会は、トリプルI共同議長、G7議長国トロイカ、学术界、グローバルヘルス分野の民間投資家、開発金融機関、IFC、WHO、世界銀行、UNDPなどの保健関連機関のメンバーで構成されています。
- 2024年9月以降の期間において、2025年2月および8月に2回の会合が開催されました。
- 第4回運営委員会では、パートナーの増加や出版物、TICAD 9などの今後の活動、インパクト投資の進化する情勢について共有しました。委員からは、2025年以降のガバナンス、グローバルヘルス投資を加速する戦略、既存の基盤を活用して勢いを維持する重要性について意見が出されました。
- 第5回運営委員会では、日本が事務局を継続し、現共同議長の任期を延長することが承認されました。WHOの委員は、新しいイニシアティブを紹介し、トリプルIや他の組織と協力してインパクト投資や革新的な保健資金の調達を推進する方法を検討しました。

ウェブサイト開発とソーシャルメディア

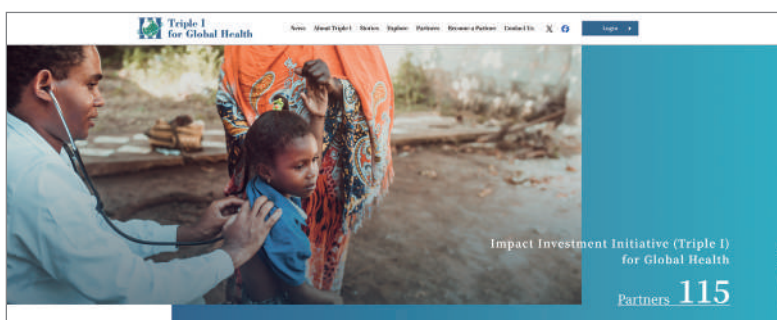
— オンラインプラットフォームとコミュニティの構築 —

トリプルは、公式ウェブサイトを通じて、当団体の活動・イベント情報やパートナーの取組事例（ストーリー）を共有しています。ウェブサイトは常に開発が続けられ、トリプルパートナー間でのコミュニケーション促進を目指しています。

トリプル ウェブサイト

- **パートナー専用ページの開設：**

2025年2月に、トリプルウェブサイト内にパートナー専用ページが開設されました。このページでは、パートナーが投資やプロジェクトの情報を提出することができるほか、過去のラウンドテーブルやワーキンググループなどの関係者向け会議の資料を参照することができます。



- **ストーリーページの新しい機能：**

新たに追加された地域フィルターにより、ユーザーは6つの地域カテゴリから選択してトリプルパートナーのストーリーを容易に閲覧することができます。



ソーシャルメディア

- トリプルは2024年9月に、Xアカウントを、また同年11月にFacebookアカウントを作成しました。このアカウントでは、事務局がトリプルに関連する最新情報を発信しています。

インパクト投資モデルの開発支援

グローバルヘルス分野におけるインパクト投資を促進するためには、さまざまなステークホルダーにとって「共通言語」となるIMM（インパクト測定・管理）ガイダンスの策定が不可欠です。トリプルIは、パートナーからの要請に応え、グローバルヘルス特化型のIMMガイダンスの開発と、目標や進捗を測定・共有するための指標や管理手法の調和を支援するため、IMMワーキンググループを2024年9月に設立しました。2025年9月までに、IMMワーキンググループは8回の会合を開催し、グローバルヘルス分野の専門家や実務者を招いて、IMM実践の調和に関する意見や助言を得ています。

これまでに、IMMワーキンググループは2つの報告書を発表しています。1つ目は「グローバルヘルス分野におけるIMM実務者ガイド」であり、グローバルヘルス分野で活動する投資家や組織向けに、堅牢なIMM実践を構築するための主要なアクション、投資の進捗を追跡するための関連指標の特定、そしてインパクト創出を財務成長目標に統合する方法を示しています。このガイドはトリプルIの公式ウェブサイトでご覧いただけます。

2つ目は、また、GIINとの協力により、国連総会（UNGA）のサイドイベントにて発表されたIMM提言です。この提言は、主要なグローバルヘルスのステークホルダーや投資家が市場インセンティブを創出し、IMM実践の採用を促進することを目的としています。最終報告書は2025年末に公開予定です。

IMMワーキンググループは、IMM実務者ガイドに関するパブリック・コンサルテーションやパイロット事例研究を関係機関とともに実施する予定です。このガイドは「living document」として位置づけられており、これらの取り組みから得られる知見は、今後の改訂版に反映される予定です。

詳細は https://cms.tripleforgh.org/news/images/Triple_I_Practitioner_Guide_Final.pdf をご覧ください。

グローバルヘルス分野におけるインパクト投資を 促進するための政策と環境の整備

トリプルIは、第3の柱（政策と環境整備）の下で、政策立案者や国際機関がインパクト投資を促進するために取るべき取り組みを検討しています。その内容には、制度的アプローチ、資金調達メカニズム、リスク低減ツール、アドボカシー活動、ブレンデッド・ファイナンスへのインセンティブなどが含まれます。

この取り組みの一環として、トリプルIはDFI（開発金融機関）、MDB（多国間開発銀行）、インパクト投資家、慈善団体のメンバーからなるワーキンググループを設立し、さまざまなステークホルダーから有益な政策ツールに関する知見を収集しました。同時に、G7に関する調査や専門家インタビュー、トリプルIパートナーとのラウンドテーブルも実施し、政策の役割に関する多様な意見を集めました。

これらの活動から得られた知見を踏まえ、トリプルI事務局は、投資を提供する国・受け入れる国双方の政府、DFI、MDB、国際機関、その他の主要ステークホルダーに向けて、公共資金と民間資本の動員をさらに促進するための提言をまとめました。この提言は、2025年1月にダボスで開催されたサイドイベントで初めて発表され、最終版は2025年4月にトリプルIパートナーの事例を含む提言書として公開されました。

トリプルI事務局は、関係するステークホルダーの協力を得ながら、本報告書のフォローアップを進め、政策立案者や関係機関のリーダーに対して、既存の取り組みを基盤にさらなる革新的なアプローチを採用し、特にLMICsのサービスが届きにくい地域における保健分野への投資を一層促進するよう呼びかけています。

トリプルIの提言概要

資金フローの加速と新たなインパクト投資資本の創出

1. インパクト事業に利用可能なインパクト投資資本を増やす
2. 国や地域をまたぐ為替リスクをより適切に管理する仕組みを拡充する
3. 保健投資家の市場拡大と信頼性向上のため、インパクト投資プラットフォームの構築を支援する

知識とデータ交換の促進

4. インパクトマネージャーや事業者が専門知識やネットワークにアクセスできる環境を整備する
5. 投資家が質の高い保健データにアクセスできるよう、データプラットフォームを整備する

調達環境の改善

6. スケーラビリティとイノベーションに焦点を当てた成果連動型モデルを活用する
7. 規模の経済を実現するため、政府横断的な需要統合メカニズムを活用する

インパクト投資に適した環境の整備

8. 包括的な保健分野のインパクトを確保するため、一貫性と透明性のある測定戦略の活用を促進する
9. インパクト投資家や社会的インパクト事業を支援するため、適切な規制環境を整備する



詳細は https://tripleiforgh.org/news/images/triple_policy_recommendations_final.pdf をご覧ください。

グローバルヘルスにおける インパクト投資の現状分析

トリプル事務局では、レポートフレームワークを通じて報告を受けたトリプルパートナー機関の2024年時点の投資データ190件に基づき、主に低・中所得国（LMICs）を対象としたグローバルヘルス分野におけるインパクト投資の動向を分析しました。今回の分析対象は、新規の投資案件の追加や既存案件の終了等に伴い、前回の母集団とは一部異なる点があります。

グローバルヘルス分野においてインパクトの創出を目的とした投資およびプロジェクトの累計金額は222億米ドルに達し、前年から5%増¹となりました。このうち約62%は、低所得者層や貧困層を含む人々を対象としており、社会的インパクトの最大化を重視した取り組みが展開されています。地域別の傾向としては、アフリカ地域を対象とした案件数が最も多く、当該地域へ重点的な投資が行われていることが明らかとなりました²。

インパクト測定・管理（Impact Measurement and Management: IMM）に関しては、パートナー機関ごとにアプローチの差異が見られるものの、全体としては盤石な測定基盤が構築されつつあります。すでに複数の機関が、主要テーマにおいてアウトプット、アウトカム、インパクトの各レベルに対応した定量的指標を導入しており、今後のインパクト投資の成熟に伴い、さらなるIMMの高度化が期待されます。

トリプルは今後も年次でのデータ収集を継続する方針であり、次回のデータ収集は2025年初頭から実施される予定です。本分析から得られた知見は、インパクト投資の資本の活用状況およびグローバルヘルスへの影響を可視化する上で重要な基盤となり、今後のベストプラクティスの共有やグローバルヘルス分野におけるIMMの発展にも資することが期待されます。

¹ 2025年10月時点において、2023年の案件として報告された一部の投資・プロジェクトについて、投資先が先進国のみであった、あるいは、投資金額に誤りがあったと複数のパートナー機関から報告を受けた。そのため、修正後の投資金額にもとづくと、トリプルパートナーによる2023年の投資総額は、計212億米ドル（うち民間資金178億米ドル、公的資金27億米ドル、NPO・NGO資金7億米ドル）となり、本修正値を基準として比較したもの。

² 本分析では、OECD DACリスト諸国を投資対象とした案件を分析対象としているため、高所得国については集計対象から除いている。

グローバルヘルス分野への投資概要

- パートナー機関から報告された、2024年時点で継続している低・中所得国 (LMICs) を対象とした190件の投資およびプロジェクトのデータによると、トリプルは累計222億米ドルの資金をグローバルヘルス分野に動員したことが確認されました。このうち、投資案件が全体の約96.2% (213億米ドル) を占め、プロジェクト案件は約3.8% (8億米ドル)、その他 (キャパシティ・ビルディングや横断的な活動等) が約0.1% (1,600万米ドル) でした。【図1】
- 投資主体別に見ると、民間部門 (投資家および企業を含む) による資金が全体の約85.3% (189億米ドル) を占めており、公的資本は約12.2% (27億米ドル)、NPO/NGOは約2.5% (5億米ドル) となりました。【図2】
- 本分析では、同一案件の二重計上を防ぎ、分析の正確性を最大限確保するため、パートナー機関間の資金の授受関係を確認してデータを集計しています。

図1 投資種別ごとの投資金額割合

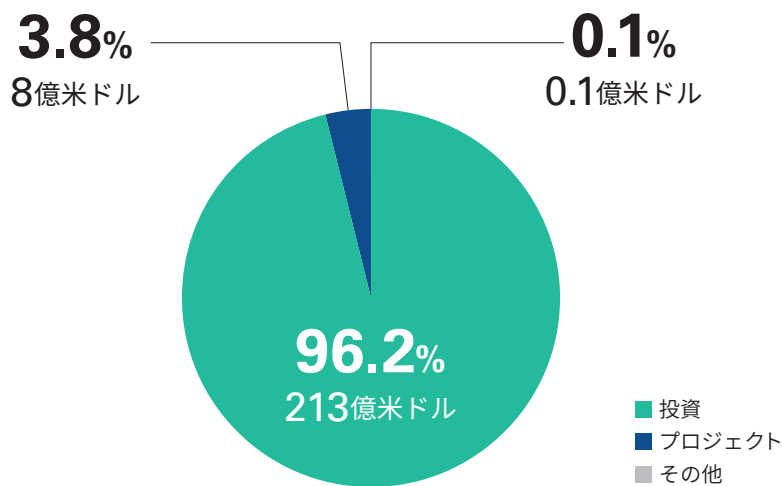
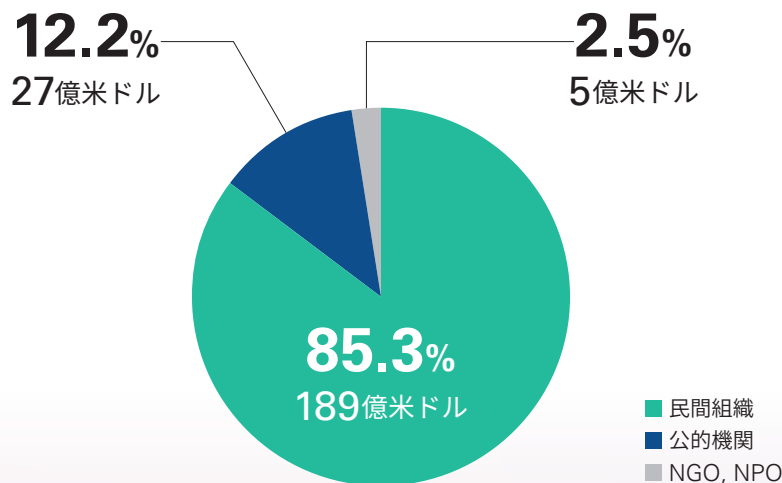


図2 組織種別ごとの投資金額割合



低所得層および貧困／脆弱な人々を対象とした投資

- 報告された全投資案件190件のうち、約68.9% (131件) は、低所得者層・貧困／脆弱層を含む層が支援対象でした。**【図3】**金額ベースでは、低所得者層・貧困／脆弱層を含む人々を対象とする投資金額は総額138億米ドルにのぼり、全体の約62.1%を占めています。**【図4】**また、高所得層のみをターゲットにした案件は0件でした。なお、本年はデータの分析方法を工夫したことにより、前回分析時には抽出されなかった中・高所得層のみを対象とした分析も行っています。
- 低所得者層・貧困／脆弱層のみを裨益者とする投資金額は7億米ドル³ (民間資金：62.9%、公的資金：6.8%、NGO・NPO資金：30.3%)、中・高所得層のみを対象とした投資金額は2億米ドル (民間資金：99%、公的資金：1%、NPO：0%) でした。特に民間組織において、幅広い所得層に向けた投資活動を行うことで、投資の持続性を確保している機関が多いと推察される一方、一部の機関では、低所得層・脆弱層といった最も支援を必要とする層に特化した投資を進めています。

図3 全所得層のうち低所得層・貧困層を含む人々を対象とした案件数割合

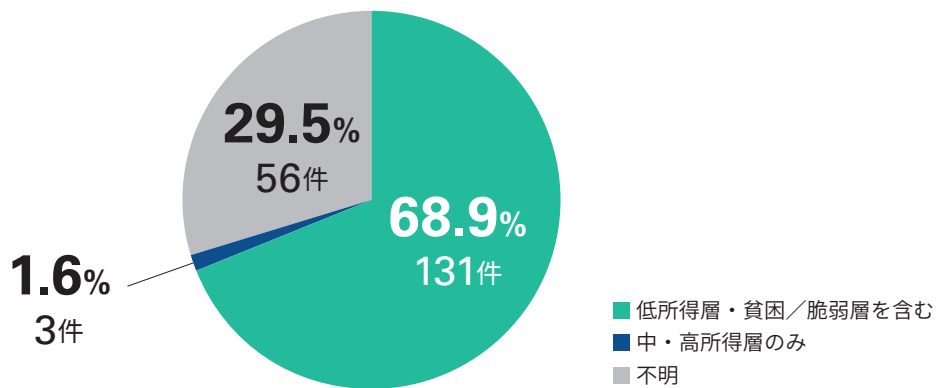
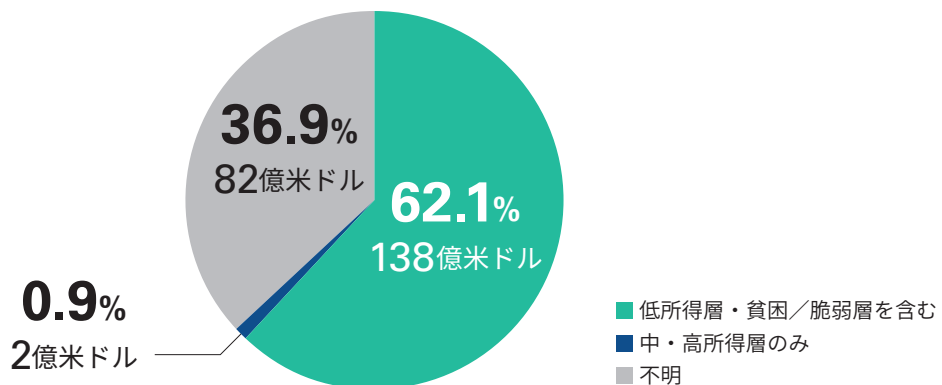


図4 全所得層のうち低所得層・貧困層を含む人々を対象とした案件の投資金額割合

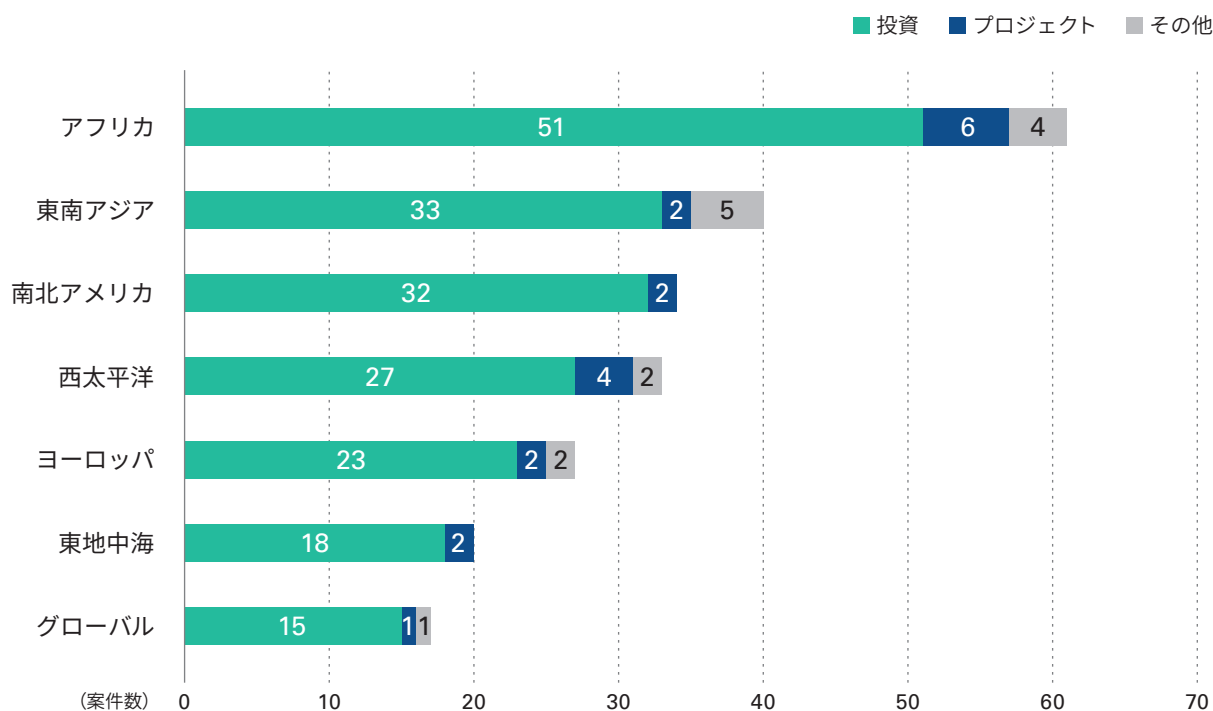


³ 低所得層・貧困／脆弱層のみを対象とした投資額は、前回の分析時と比較して減少している。主な要因としては、前回分析時に当該裨益者を対象とした案件を報告したパートナー機関から、今年度の投資データの提出がなかったこと、また、前回分析時点で継続中だった案件が2024年度時点で終了したことが挙げられる。

世界各国で展開されるインパクト投資⁴

- LMICs諸国をターゲットとした投資およびプロジェクト件数を、WHO加盟諸国の地域分類に則って集計したところ、案件数が最も多かったのはアフリカ地域の61件でした。次いで東南アジア地域が40件、南北アメリカ地域が34件と続いており、これらの地域が主要な投資対象となっています。一方、特定の地域に限定せずに投資を展開する「グローバル」案件も複数の機関で実施されています。なお、前回分析では、国別の投資対象案件数との整合性を確保するために、同一地域内の複数国を対象とする案件については、該当地域に重複して集計していましたが、本分析においては、各地域を対象とした案件数を集計するため、集計方法を変更しています。例えば、昨年はアフリカ2か国にまたがる案件を2件と数えていましたが、本分析では、アフリカ地域で1件と集計しています。⁵【図5】
- 国別においては、幅広い国への投資が行われている中で、ナイジェリア（33件）、ケニア（31件）、インド（30件）などに投資が集中している傾向も見られます。その理由としては、これらの国は、保健医療へのアクセスが不十分である一方、人口が多く今後の経済成長の側面でポテンシャルが高いためと考えられます。また、既存・新規加入パートナー機関において当該諸国を対象とした新規案件が開始したことに伴い、これらの国への投資案件数は昨年度と比較しても増加しています。【図6、図7】

図5 投資・プロジェクトが対象としている地域

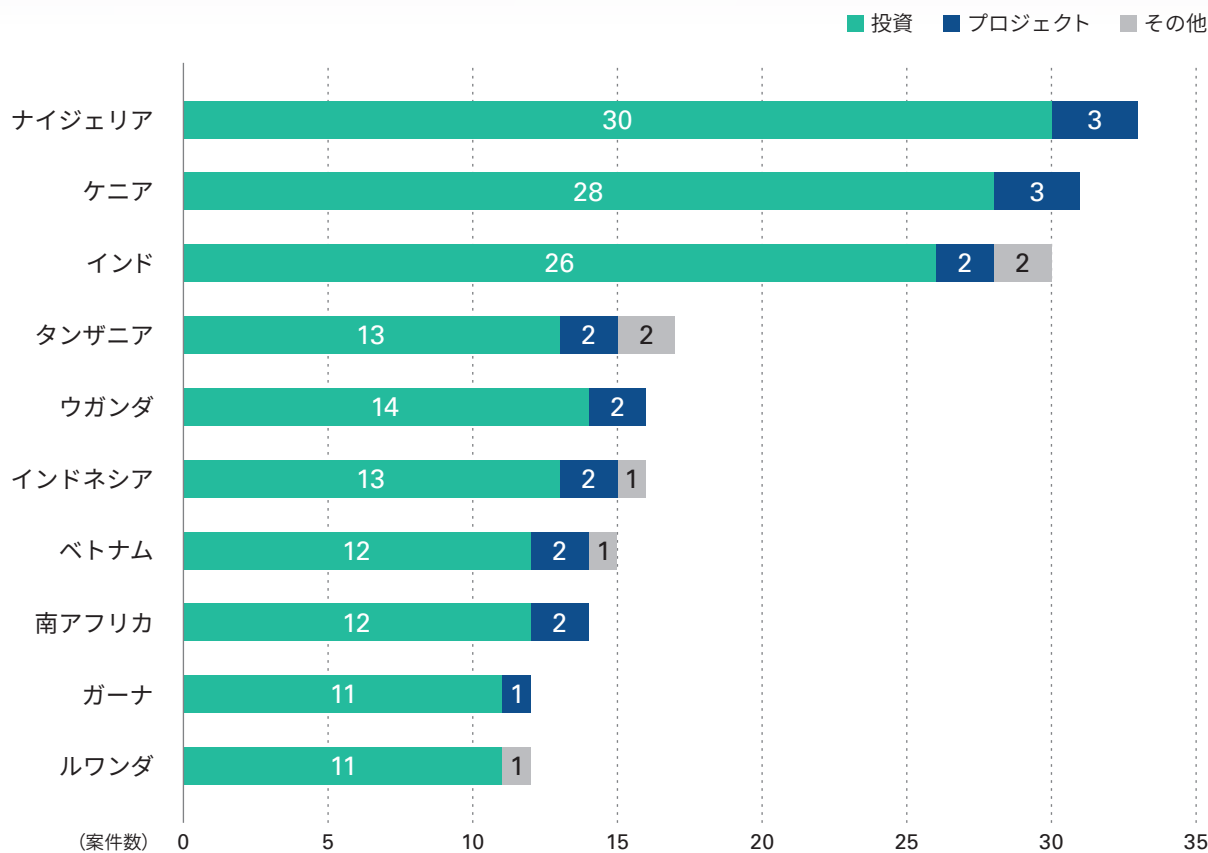


*1案件が複数地域を対象としている場合を含む

⁴ 現時点では、LMICsを対象として分析を実施しているため、高所得国のみを対象とした案件は集計から除く。

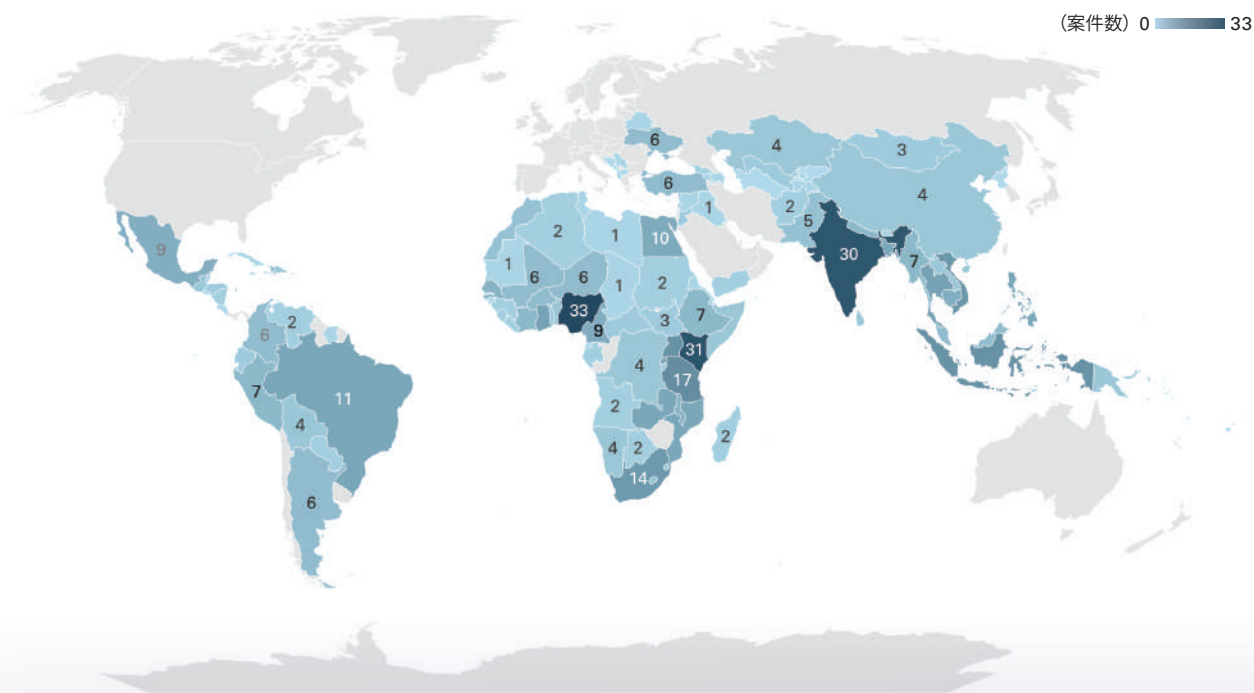
⁵ 地域の分類はWHOの加盟国の分類に則ったもの。

図6 投資・プロジェクトが対象としているLMICsトップ10



*1案件が複数国を対象としている場合を含む

図7 投資・プロジェクトが対象としている国



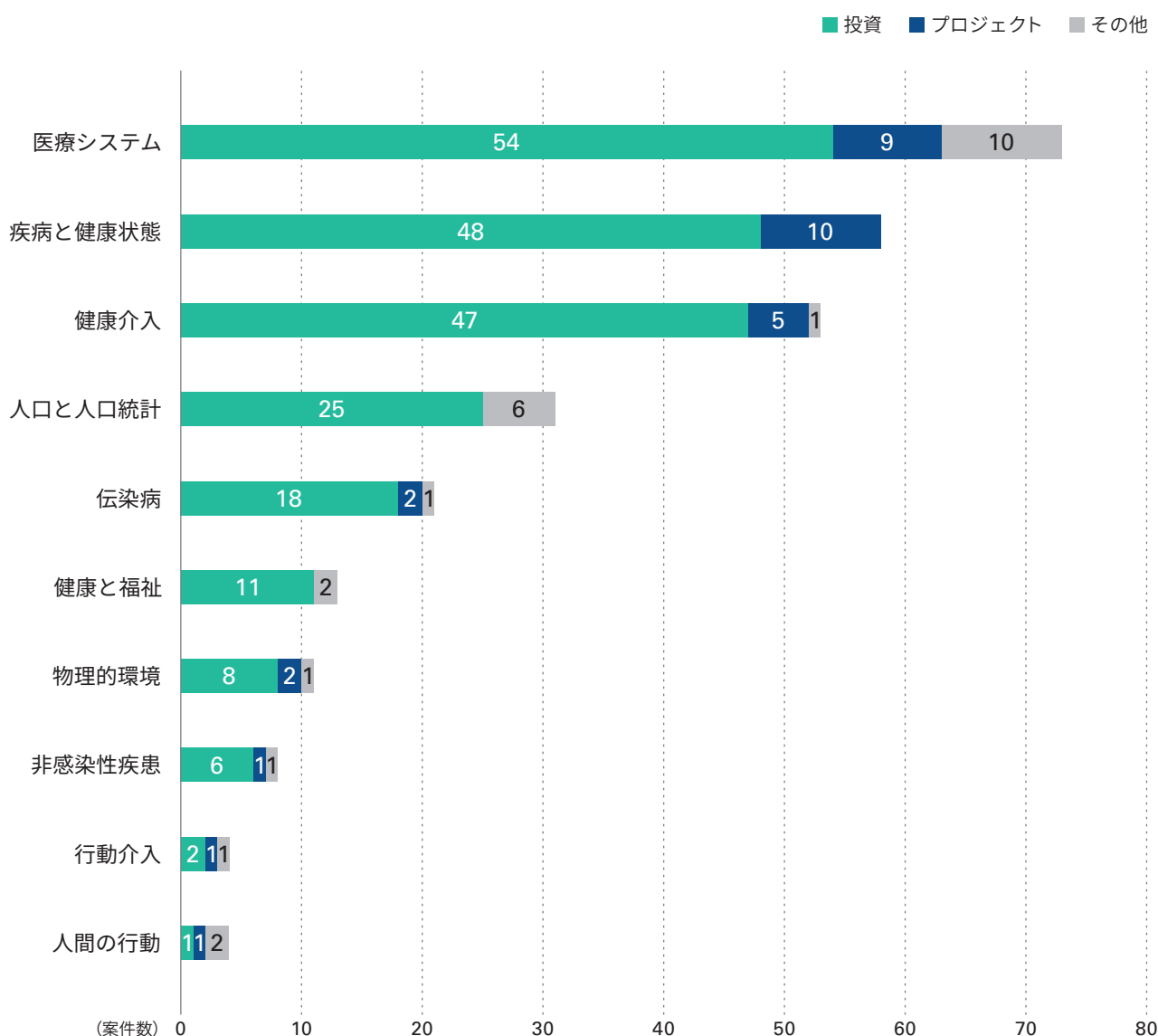
*1案件が複数国を対象としている場合を含む

提供元: Bing
© Australian Bureau of Statistics, GeoNames, Geospatial Data Edit, Microsoft, Navinfo, Open Places, OpenStreetMap, Overture Maps Foundation, TomTom, Zenrin

インパクト投資を通じて目指す医療システム分野の発展

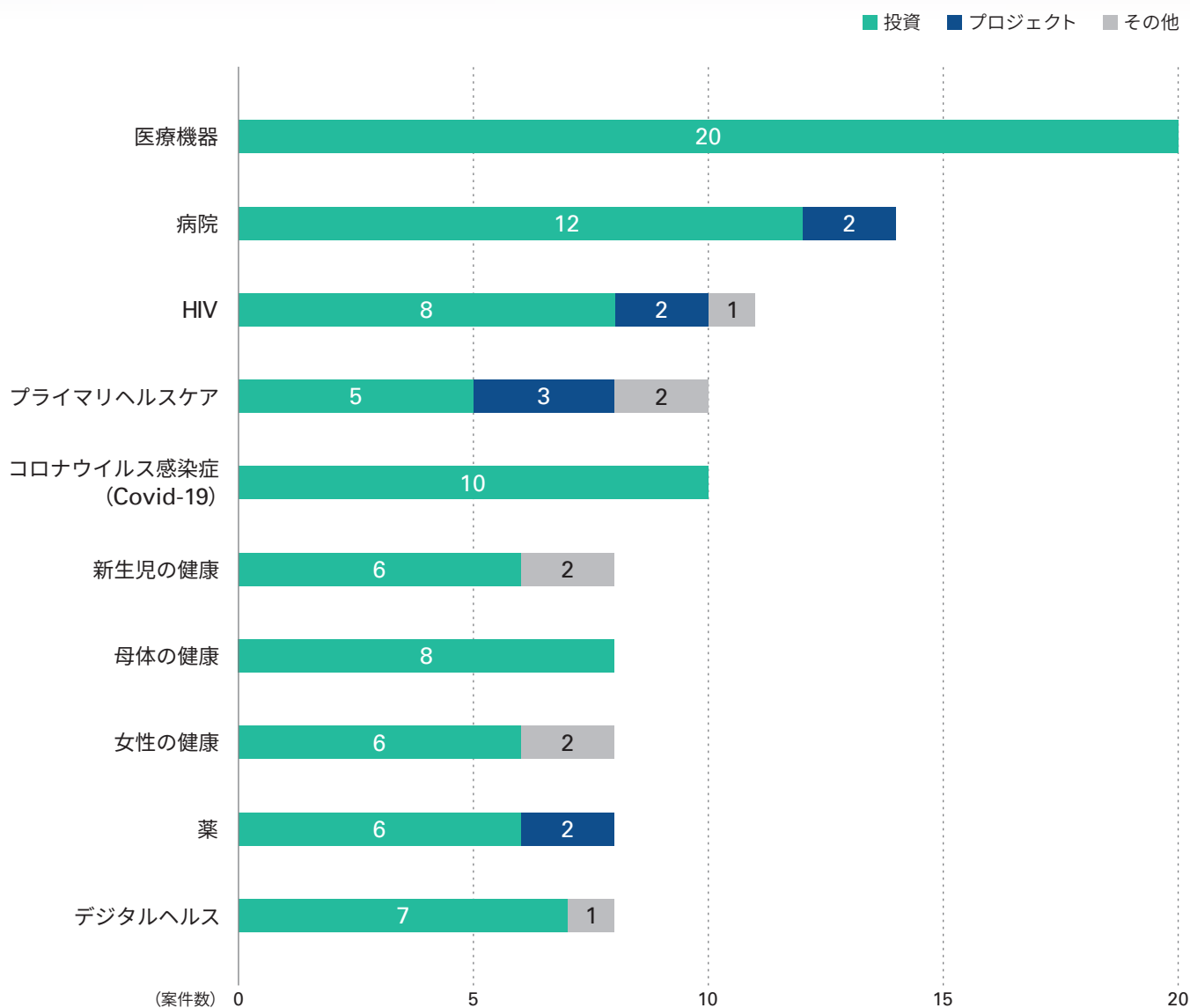
- グローバルヘルス・トピック⁶別の投資においては、主に「医療システム」、「疫病及び健康状態」及び「健康介入」の3分野に集中しており、保健医療分野における構造的課題への対応に注力されていると考えられます。【図8】
- さらに詳細なグローバルヘルス・サブトピックとしては、「医療機器」、「病院」及び「HIV」が主要な投資対象となっています。その他にも、新生児の健康、母体の健康、デジタルヘルス等も、グローバルヘルス・サブトピックのトップ10に含まれており、包括的かつ多様な健康課題への対応が図られています。【図9】

図8 グローバルヘルス・トピックのトップ10



⁶ WHOのGlobal Healthの分類に基づいたもの。(https://www.who.int/health-topics)

図9 グローバルヘルス・サブトピックのトップ10



効果的なインパクト評価における重要なKPIの採用

- 効果的なインパクトの測定・マネジメントにおいては、指標を一貫して適用することが重要です。指標によって、プロジェクトの責任者と外部ステークホルダーの双方に対して、意思決定に資する情報を提供することが可能となります。
- 今回収集した190件の投資・プロジェクト案件のうち、129件でKPI (Key Performance Indicator) が報告され、総計419個のKPIが集計されました (重複含む)。このうち、アウトプットKPIが約51% (216件)、アウトカムKPIが約20% (83件)、インパクトKPIが約29% (120件) 報告されており、昨年と同様に、アウトプットKPIが最も多く報告されたことが確認されました。

グローバルヘルス・サブトピックのトップ5におけるKPI活用の傾向

- トリプルパートナー機関が投資するグローバルヘルス・サブトピックのトップ5「医療機器」「病院」、「HIV」、「プライマリヘルスケア」「コロナウイルス感染症 (Covid-19) 」において活用されているKPIは以下になります。【表11】
- グローバルヘルス・サブトピックのトップ3における「医療機器」「病院」「HIV」のKPIにおいてTriple I Reporting GuidelinesのKPIカテゴリーにおける「Access to Healthcare」に紐づくKPIが活用されている傾向があります。また、「病院」においては「Global Health Governance and Policy」、③HIVでは「Communicable Diseases」に紐づくKPIも活用されています。
- 各案件に関連するSDGsとしては、ゴール3(すべての人に健康と福祉を)のみならず、ジェンダー平等(ゴール5)、不平等の解消(ゴール10)、パートナーシップ(ゴール17)など、全案件の半数以上(52%、99件)では複数の目標達成に向けた取り組みが進められています【図10】。この傾向はKPIの設定にも反映されており、例えば医療機器やHIVの分野では「LMICsで改善／救命／アクセスを得た女性、子ども、若者の数」や「低所得層の患者への到達」といったKPIが活用されていることから、SDGsと関連したKPI設定ができていていることが伺えます。【表11】

図10 関連するSDGsトップ10 *ゴール3を除く

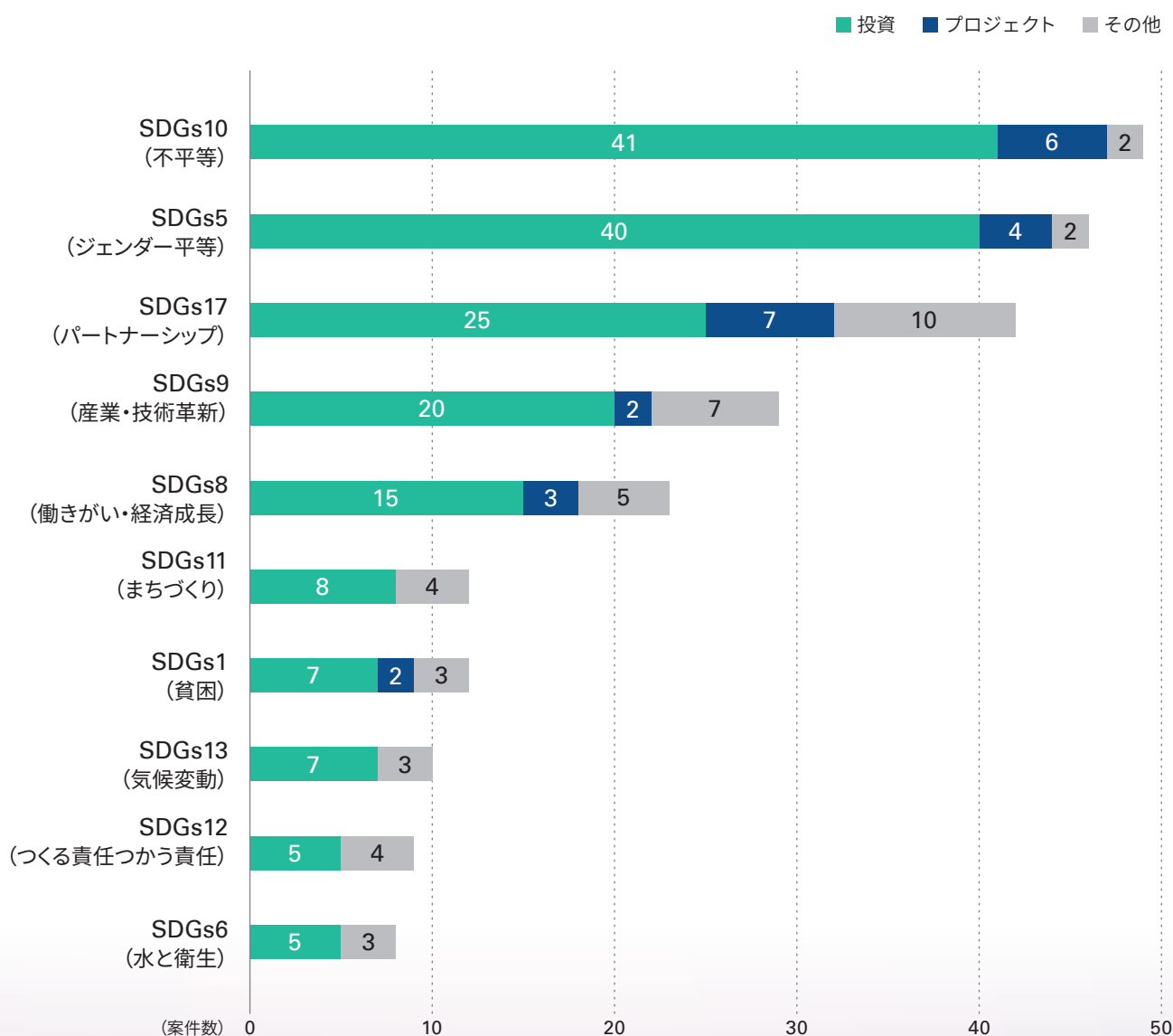


表11 グローバルヘルス・サブピックのトップ5において特に活用されているKPI例

	指標のタイプ	指標
病院	アウトプット／アウトカム／インパクト	医療サービスが提供された患者数
	アウトカム／インパクト	医療システムのパフォーマンスと強靱性の向上
	アウトプット	健康診断・検査の実施数 調達または分配された資本額
HIV	インパクト	従来サービスが行き届いていなかった／不利な立場にある人口層への医療サービスの拡大 特定の疾患／病状に対する効果的な治療を受けた患者数
	アウトカム	医療費削減によるシステムレベルでの経済的節約 自己負担医療費の削減
	アウトプット	開発されたヘルスケア製品の数 対象となった低・中所得国 (LMICs) の数
医療機器	インパクト	従来サービスが行き届いていなかった／不利な立場にある人口層への医療サービスの拡大 規制当局の承認を得た製品／サービスの数 提供することができた低・中所得国 (LMICs) の数
プライマリヘルスケア	アウトプット	健康に関する教育セミナーの実施数 従来サービスが行き届いていなかった／不利な立場にある人口層への医療サービスの拡大 妊産婦死亡率および乳児死亡率
コロナウイルス感染症 (Covid-19)	アウトプット／アウトカム	接種されたワクチン数
	アウトプット	導入された医療関連機器の数 資源活用の効率性

トリプルのパートナー機関によるインパクト創出

- 効果的なKPIの設定によりトリプルのパートナーのインパクト創出を明確にすることはこのイニシアティブの目的の一つです。トリプルのパートナー機関における投資・プロジェクト等の投資情報は、現在もデータ収集中ではあるものの、投資情報収集のためのレポートフレームワークの改訂により、現時点においてインパクトの種別を「改善または救済された命」、「調達されたワクチン」、「感染症の治療」、「実施された検査」、「訓練を受けた医療従事者」、「清潔な水へのアクセス」の6つに分類してより詳細に分析することが可能になりました。各インパクトの実績値は、下記の通りであり、トリプルパートナー機関のインパクト投資により、多くの裨益者が恩恵を受けていることが確認されました。なお、集計データの精緻化に向けたデータ収集方法の改訂に伴い、昨年度の各KPIデータとは異なる算出基準やプロセスを用いています。



延べ**15億人**にインパクトを与えた

内訳（一部）



延べ**5.2億人**の命が改善・救済された



約**4.5億**ワクチンが調達された



約**2,100万人**が感染症の治療を受けることができた



約**500万**の検査が実施された



約**83万人**の医療従事者が訓練を受けることができた



約**30万人**が清潔な水を利用可能になった

- 今後は構造的・体系的なインパクトに関連するコストやその他の変化を含む分析を検討しています。また、各パートナー機関により設定されているKPIの種別が多様であることから、今後、トリプルIにおけるサンプルKPIを設定し、グローバルヘルス分野におけるKPIの標準化を図る方針です。

今後の展望

— グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の課題と機会 —

2023年国連総会（UNGA）と同時に立ち上げられたトリプルIは、本報告書に記載の通り多くの進展がありました。具体的な成果をさらに進め、価値ある変革的なグローバルヘルス・イニシアティブとしての地位を確立するために、トリプルIは3つの柱に基づき引き続き活動を推進していきます。

第1の柱 | インパクト投資の認知度を高める

トリプルIは、保健・金融などの異なる分野間の対話と協働を加速させるために、イベントやセクター横断的な対話の開催、広報資料の作成、ウェブサイトおよびソーシャルメディアを活用した情報発信を継続して行います。これにより、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の認知度向上とその意義の可視化を図ります。

これまでに達成された、ネットワークの拡大、イベントの開催、積極的な情報発信などの成果は、今後の広報活動を通じて進捗が報告されます。

さらに、トリプルIは、特にアフリカおよびアジア地域における認知度と可視性の向上を目指し、現地のステークホルダーとの連携やアウトリーチ活動を強化します。

加えて、トリプルIは、さまざまな資金調達メカニズム、保健プロジェクト、地域における投資データの収集と分析を継続し、LMICsにおける脆弱な人々を含むグローバルヘルス分野への民間資金の動員が果たす貢献を明確にします。

これにより、広く共有・学習可能なベストプラクティス事例の特定が可能となり、グローバルヘルス分野におけるIMMガイダンスの策定にもデータ分析が活用されます。

第2の柱 | インパクト投資のモデル開発を支援

トリプルIは、これまでの主要な成果である、IMMに関する実務者ガイドおよび政策提言の策定をさらに推進するとともに、今後の取り組みに向けた明確な方向性を示していきます。

具体的には、グローバルな関連機関との連携を深めることでIMM手法の調和に取り組み、グローバルヘルス分野における能力強化を促進していきます。

第3の柱 | インパクト投資向けのインセンティブを促進するための政策と環境の整備

トリプルIは、政策提言のフォローアップとして、G7およびG20、LMICsの政府、国際機関、インパクト投資家、関連機関などの主要なステークホルダーとの議論を、現地機関との連携を通じて実施し、提言の普及を進めています。これらの議論では、各国および関係機関が今後どのように具体的な行動を取るべきかに焦点を当てています。

トリプルIは今後も、政策提言のフォローアップを継続し、好事例の共有、インパクト投資の機会に関する認知度向上、そして世界各国の政策立案者や意思決定者に対して、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の推進に向けた具体的な行動を促すことを目指します。

グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の拡大を通じたUHCの達成に向けて、トリプルIは関連する多様なステークホルダーとの連携を強化し、G7パートナーとの協働を進めていきます。これにより、本イニシアティブを持続可能なものとし、グローバルヘルス分野の課題に対する長期的な取り組みとして確立することを目指します。

Annex

トリプルパートナー 一覧 (2025年9月30日現在) ※英語表記でのアルファベット順

1	株式会社and Capital	32	エーザイ株式会社
2	54COLLECTIVE.VC	33	富士フイルム株式会社
3	A to Z Impact Foundation	34	GHO Capital Partners LLP
4	AA Health Dynamics株式会社	35	GLIN Impact Capital合同会社
5	AAIC Investment Pte. Ltd.	36	Global Partnerships
6	Africa Health Ventures Inc.	37	Global Surgical Initiatives, Inc
7	African Mothers株式会社	38	Grand Challenges Canada (GCC)
8	African Venture Philanthropy Alliance (AVPA)	39	Health and Life Sciences Cluster Bulgaria
9	味の素株式会社	40	Health Finance Coalition (Capital Stack for Health LLC)
10	Aliath Bioventures S.L	41	Healthy Brains Global Initiative
11	APG Investments Asia Ltd	42	Hugh Green Foundation
12	Apposite Capital LLP	43	インパクト・キャピタル株式会社
13	株式会社アラヤ	44	India Health Fund (Confluence for Health Action and Transformation Foundation)
14	Asian Development Bank	45	Innovations in healthcare
15	Asian Venture Philanthropy Network (AVPN)	46	インスタリム株式会社
16	アセットマネジメントOne株式会社	47	IPE Global Limited
17	AXA Investment Managers UK Limited	48	グローバルヘルス市民社会ネットワーク
18	Baraka Impact Finance LLC	49	独立行政法人国際協力機構 (JICA)
19	Bayer AG	50	株式会社かんぼ生命保険
20	Bridges Outcomes Partnerships	51	一般財団法人社会変革推進財団 (SIIF)
21	カーブジェン株式会社	52	Jaza Rift Ventures Limited
22	CarePoint	53	Johnson & Johnson Foundation United States
23	City Cancer Challenge	54	KfW
24	Cross-Border Impact Ventures Ltd.	55	一般財団法人KIBOW
25	株式会社クロスポイント・アドバイザーズ	56	KOIS Advisory SA
26	Developing World Markets/DWM Asset Management, LLC	57	Landcent Europe B.V.
27	Digital Square	58	LeapFrog Investments
28	Drugs for Neglected Diseases initiative	59	Levoca LLC
29	East Africa Private Equity and Venture Capital Association (EAVCA)	60	株式会社LIXIL
30	EHA Impact Ventures	61	MedAccess Guarantee LTD
31	栄研化学株式会社	62	Medical Credit Fund

63	Medicines Development for Global Health	100	シスメックス株式会社
64	Medicines Patent Pool (MPP)	101	株式会社タウンズ
65	Menterra Advisors LLP	102	TEAMFund, Inc
66	Metrics for Management	103	The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria
67	株式会社みずほフィナンシャルグループ	104	The Global Surgery Foundation
68	モデルナ・ジャパン株式会社	105	Total Impact Advisors LLC dba Total Impact Capital
69	mothers2mothers South Africa NPC	106	TVM Capital Healthcare Partners Pte. Ltd.
70	ミュージックセキュリティーズ株式会社	107	U.S. International Development Finance Corporation (DFC)
71	日本生命保険相互会社	108	Ubie株式会社
72	野村アセットマネジメント株式会社	109	UNICEF
73	株式会社NTTデータ経営研究所	110	Unitaid
74	株式会社OUI	111	United Nations Development Programme (UNDP)
75	PA Consulting	112	United Nations Population Fund (UNFPA)
76	Phenix Capital Group BV	113	Verge Capital Management Pte. Ltd. (public name: Verge HealthTech Fund)
77	Private Infrastructure Development Group (PIDG)	114	WELLCOME TRUST
78	Quadria Capital	115	WHO Foundation
79	Riverr Pte Ltd		
80	Rypple		
81	SAMRIDH Healthcare Blended Finance Facility		
82	サラヤ株式会社		
83	SASAL. INC		
84	Sattva Media and Consulting Private Limited		
85	Save the Children Global Ventures Foundation		
86	株式会社SDGインパクトジャパン		
87	特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会		
88	新生インパクト投資株式会社		
89	塩野義製薬株式会社		
90	SIIFインパクトキャピタル株式会社		
91	ソーシャス株式会社		
92	Sonen Capital		
93	SORA Technology株式会社		
94	South African Medical Research Council (SAMRC)		
95	South Saharan Social Development Organization (SSDO)		
96	Stop TB Partnership		
97	住友生命保険相互会社		
98	株式会社三井住友フィナンシャルグループ		
99	Swiss Capacity Building Facility (SCBF)		

A/Aパートナー一覧 (2025年9月30日現在)

- 1 Global Health Investment Corporation (GHIC)
- 2 Global Health Technologies Coalition (GHTC)
- 3 Center for Global Health and Development (CGHD)
- 4 Global Private Capital Association (GPCA)
- 5 G20 & G7 Health and Development Partnership
- 6 Health Innovation Exchange
- 7 UHC2030

I/Kパートナー一覧 (2025年9月30日現在)

- 1 The Global Steering Group for Impact Investment (GSG)
- 2 Bill & Melinda Gates Foundation
- 3 Global Impact Investing Network - GIIN
- 4 Impact Taskforce



Triple I for Global Health

**Impact
Investment
Initiative
for Global Health**

(トリプル)

活動報告書

2024年9月 – 2025年9月



Triple I for Global Health

グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ

トリプル事務局（内閣官房）

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-39

E-mail: secretariat@tripleforgh.org

Website: <https://tripleforgh.org/>

November 2025